

12 学校案内パンフレットをつくろう ～共同編集・制作～

本教材はワークショップという形態をとって学習を進めていくように構成されている。ここでは、「話し合い」「インタビュー」「パンフレット制作」などの学習活動を通して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域を総合的に学習する。一斉学習ではなく、制作グループによる学習活動の展開が示されている。教材の内容は、入学予定の6年生に向けて、中学校生活を紹介するためのパンフレットを制作するというものである。学習内容を例えば転入してくる外国人生徒のためのパンフレット制作というように変更も可能であろう。

- 1 領域 書くこと、話すこと・聞くこと（総合的な学習としても展開が可能）
- 2 教材 「共同編集、制作 ワorkshop学校案内パンフレットを作ろう」（「現代の国語1」三省堂）
日本語で書かれたさまざまなパンフレット
- 3 目標
 - 【J S L生徒の目標】
 - ・パンフレットに使われている日本語の特徴を知る。
 - ・学校生活の様子に目を向けて、自分自身の個性を生かした意見を述べる。
 - ・制作グループでの話し合い活動で、自分の考えを述べる経験を多く積む。
 - 【J N L生徒の目標】
 - ・制作グループでの話し合いで、J S L生徒に伝えたり、意見を導き出すための方法を考える。
 - ・ワークショップ形式の学習を通して、学び合うことの大切さを味わう。
- 4 指導時間 6時間
- 5 指導形態 在籍クラスで（指導体制としてT・Tができればなおよい）
- 6 指導事項 ・言語スキル

領域	指導事項	言語スキル
話すこと 聞くこと	【話し合い】 ・話し合いの話題や方向をとらえて的確に話す。 ・グループで話題について話し合う。	・それぞれの発言を注意して聞くことができる。 ・話題を理解することができる。 ・聞いたことを確かめることができる。 ・積極的に聞くことができる。 ・はっきりと人に分かるように話すことができる。 ・内容を整え話すことができる。

書く こと	<p>【選材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な材料を選ぶ。 <p>【推敲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題にあった材料を集めることができる。 興味のある材料を選ぶことができる。 いくつかの材料の中から、課題に対して適しているものを選ぶことができる。 自分の書いたものを見直していく意味と必要が分かる。 辞書の効果的な活用ができる。 誤字、脱字、句読点に注意することができる。
言語 事項	<p>【話や文章、文】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開の違いがあることに気付く。 <p>【言語生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉の違いについて理解し、適切に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 敬体と常体を使い分けることができる。 標語（キャッチコピー）の書き方が分かる。 相手を意識した書き言葉で書くことができる。

7 指導計画

	学 習 活 動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
1 次 1 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文を読んで学習の目標・流れを確認する。 ○パンフレットの役割について整理する。 ・身近な生活の中にあるパンフレットに目を向けて、構成や使われている言葉の特徴などをメモする。 ○キャッチコピーについて整理する。 ・パンフレットに書かれているキャッチコピーを書きだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何について書かれているパンフレットなのかを判断することができる。 ・写真やイラスト、言葉の使い方などに注目し、気付いたことをメモする。 ・キャッチコピーがどれか判断することができる。 ・表記の特徴を探し出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ルビ付きが必要な場合には用意する。 ★日本語（生徒の状況に応じて、母語）で書かれたパンフレットを数種類用意しておく。 ・なるべく身近に感じるパンフレットを用意する。 ・視覚的なものについても注目させる。 ・キャッチコピーについて説明する。 ★独特の言葉遣いを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> *五七調の組み合わせ *体言止め *表記の特徴(カタカナ交じりローマ字混じり、色遣いなど)

<p>2 次 2 時 間</p>	<p>○企画会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作グループでの話し合い ・紹介したい事柄を出し合う。 ・自分が小学校6年生の時に知りたかったことは何かを出し合う。 <p>○企画書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで行う。 ・読む相手を意識しながら、パンフレットの形式、記事やその担当者を決める。 ・どのようなスタイル（文体）で表現するか決める。 ・取材の方法、時期、必要な資料の収集方法などを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの話題を理解することができる。 ・自分が紹介したい内容を話し合いの中で発表することができる。 ・話し言葉で発表することができる。 ・グループの人の発言を注意して聞くことができる。 ・話し合いで分からなかったことを、話し手に聞いて確かめることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のアイデアをグループの人に伝えることができる。 ・グループでの話し合いで意見を述べることができる。 ・敬体と常体の違いを理解することができる。 ・会話文やインタビューをまとめた文章などの特徴を知る。 	<p>★T・Tの指導体制がとれない場合には、放課後等の時間を利用して次の内容の補充の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> *学校紹介をする目的 *読んでもらいたい相手は誰か *自分だったら入学、転入する前に何を知りたかったのか。不安だったことは何か。 *母国の学校との違いは何か。 *小学校との違いは何か。など対話の中で出てきた事柄を話し合いのためのメモとして書き留めたものを持たせておく。 <p>★JNLの生徒に対して、自分たちにはない視点を話し合い活動の中で聞き出せるようにする。いろいろな視点があることが大切であることをあらかじめ伝え、JSLの生徒から出た事柄を認め、学びあえる雰囲気作りを心がけさせる。また、なるべく多くの材料がでてくるように配慮させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習実感がもてるようにするために、JSL生徒からでてきたアイデアを企画書の中に盛り込む。 ・制作グループでの話し合いになるべく多くの時間、JSL生徒のグループにつくようにする。
----------------------------------	--	--	--

	学 習 活 動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
	<p>○構想をねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成イメージのアイデアスケッチ ・記事の順序 ・記事の分量 ・図表の配置 ・パンフレット全体のタイトル 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当したい記事を選ぶことができる。 ・自分が調べたパンフレットを参考にしながら、全体の構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成イメージを具体化できるように、例を示す。 <p>★例（モデルの提示）をもとにして自分のアイディアをあらかじめ書かせておく。</p>
3 次 2 時 間	<p>○各自の記事分担の下書きをする。</p>		<p>★材料の集め方は</p> <ul style="list-style-type: none"> *生徒手帳を調べる。 *先生に聞く。 *クラスの友達にアンケートをとる。 <p>などがあることをアドバイスする。このほかにも、自分の学校生活で気付いたことなどもメモさせておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が書いた下書きの内容にそってキャッチコピーを書くようにする。 ・グループでキャッチコピーに統一性を持たせるなどの工夫をする。その場合、下書きの段階ではキャッチコピーは作らない。 <p>★キャッチコピーの作り方（モデル）を示す。その際、既存の高校の入学案内のパンフレットなどを準備して参考にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五・七・五などの語呂合わせなどの方法、体言止めなどの方法についても例示をする。 ・最初にキャッチコピーを作成するのが難しい場合は、あらかじめ自分が担当している、伝えたい内容を母語で書かせてみる。書いた文章に見出しを付けると

			<p>したら、どんな表現が適切か、まずは母語で書かせてから翻訳させてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母語での作文→翻訳
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下書きを読み合い、推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲の仕方が分かる。 ・ 正しい表現を使うことができる。 ・ 文体を統一することができる。 ・ 全体の構成から、図表やイラストが適切か判断する。 ・ 記事の内容の重複はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ★他の生徒の文章を読んで推敲するときの視点として、他の生徒の表現で分からないことを、積極的に質問させる。 ★JSL生徒ならではの視点からの気づきを、クラス全体で受け入れ、評価するような雰囲気作りを心がける。
4 次 1 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清書する。 ○ できあがった作品を読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読みやすい文字で書くことができる。 ・ パンフレットに書かれている内容を読み、理解する。 ・ 読んだ感想を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語辞典を準備して、なるべく漢字を使うようにさせる。

◆展開

学校状況に応じて次のような展開も考えられる。

- 毎年必ずJSLの子どもたちの入学がある場合
- クラスに複数のJSLの子どもたちがいる場合

1次2次までは同じ展開

3次をJSLの子どもたちだけのグループを作成し、母語によるパンフレットを作成する。この場合、JNLの生徒が作成したパンフレットをもとに考え、それを日本語で表現させてみることも考えられる。

自分が作ったパンフレットが実際に活用される場面を多く設定することで、学習実感を高めることが可能だと考える。

取り出し学級で扱う場合には、パンフレットという形式ではなく、「ちょっと成長した自分を手紙で伝えよう」というような形式で行うこともできる。

指導者は・・・

ワークショップという学習形態では、指導者はファシリテーターとして位置づけられている。制作グループでの話し合いがスムーズに行われるように、グループへの助言をする。T/Tでの授業形態が可能ならば、JSLの生徒がいるグループに1人の指導者がつくことも考えられる。また、あらかじめグループのリーダーの生徒に、話し合いの司会の仕方や、聞き方などを指導することで、話しあい活動に積極的に参加できる雰囲気を作り出すこともできる。

パンフレットを調査しよう

パンフレットを見て、次の
ことを調べてみよう。

<p>なに 何について書いてあるパンフレットですか？</p>	<p>いちばんさいしょと 一番最初に飛び こむ文字は何？</p>
<p>どのような目的で作られていますか？</p>	<p>どのような内容が 紹介されているか な？ りょこう 旅行のこと？ がっこう 学校のこと？ ちいき 地域のこと？ ごみもんだい ゴミ問題のこと？</p>
<p>どのような人たちに読んでもらうためのものですか？</p>	<p>パンフレットを読む のは、だれだろう？</p>
<p>くふう 工夫してあることはどのようなことですか？</p>	<p>しゃしん かず 写真の数は？ イラストの数は？ おお 大きさは？ みだ 見出しは？ もじ おお 文字の大きさは？ かみ おお 紙の大きさは？</p>

